

46 会津藩主松平家墓所 (見祢山他)

会津藩主の墓所は初代保科正之が土津神社に祀られ、二代以降が会津若松市東山の墓所に葬られており、二代藩主正経は仏式で葬られていますが、初代及び三代以降はそれぞれ神式です。土津神社に祀られている初代藩主保科正之は、徳川二代將軍秀忠の子として慶長十六年(1611)に生まれ、高遠藩から最上藩を経て、寛永二十年(1643)会津に入封しました。慶安四年(1651)徳川四代將軍家綱の後見役として、幕府の実権を握り、このとき正之は四十一歳で、そのうち亡くなるまでの二十年間幕政に携わることとなります。正之は神道に造詣が深く、吉川惟足より土津靈神の称号を受けました。亡くなる前の年に会津入りした正之は、磐梯山麓に家老たちとともに訪れて、猪苗代湖が一望できる磐椅神社近くの地に、死後その末社として葬るよう命じました。正之が寛文十二年(1672)十二月に亡くなると、遺言どおり「土津神社」造営が開始され、二年後の延宝三年(1675)に完成し、遷宮式が執り行われました。新装となった神社は日光東照宮にもたとえられるほどの豪華絢爛なものであったといえます。惜しくも創建当時の社は、明治維新の会津戦争のとき焼失してしまいました。その後会津戦争の難を逃れるため、斗南(今の青森県)に仮遷宮されていた御神体は土津神社再興のため明治七年(1874)猪苗代に帰り、明治十三年(1880)新たに社も完成し現在にいたっています。

(国指定史跡)



男橋と神前大鳥居



奥の院(奥津城)

天下府城は万民の
便宜安居を以て第一とす

